

令和元年6月26日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2013～2018

課題番号：25284011

研究課題名（和文）南インド希少ヴェーダ学派の文献集成と翻訳研究

研究課題名（英文）A Compilation and translation studies of the texts of the two rare Vedic schools in South India

研究代表者

藤井 正人 (Fujii, Masato)

京都大学・人文科学研究所・教授

研究者番号：50183926

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 14,200,000円

研究成果の概要（和文）：南インドのケララ州中部に近接して存続する希少ヴェーダ学派のジャイミニヤ派（サーマ・ヴェーダ所属）とヴァドゥーラ派（ヤジュル・ヴェーダ所属）が伝承する写本とその他の伝承資料（祭式・歌詠に関するものを含む）を編集・集成して総合的な学派文献コレクションを作成するとともに、両学派の主要文献の校訂と翻訳研究を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究代表者と共同研究者のジャイミニヤ派とヴァドゥーラ派に関するこれまでの一連の研究（学派伝承の現地調査、写本収集、文献研究）を継続・発展させ、両学派の伝承と文献に関する研究の集大成として、ヴェーダ研究に新たな資料と知見を提供するとともに、南インドに現存する両希少学派に関する研究成果を集約した。

研究成果の概要（英文）：To make a comprehensive collection of the textual traditions of the Jaiminiya Samaveda and the Vadhula Yajurveda, the two rare Vedic schools in Central Kerala in South India, we have compiled the manuscripts and other materials (including those related to ritual and chant) preserved in the schools. In addition, we have made editorial and translation studies of the main texts of the two schools.

研究分野：インド学

キーワード：ヴェーダ ジャイミニヤ派 サーマ・ヴェーダ ヴァドゥーラ派 ヤジュル・ヴェーダ インド
ケララ州 サンسكريット

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究は、研究代表者と共同研究者のこれまでの以下の二つの研究に基づいて計画された。

(1) 学派伝承の調査と写本収集

<ジャイミニヤ派> 19世紀後半に A. C. Burnell によってジャイミニヤ派(サーマ・ヴェーダ)に属する諸写本がはじめて学界にもたらされ、それらをもとにこの派の文献が次々と校訂出版された。しかし Burnell の写本はすべてタミルナードゥ州のジャイミニヤ派の系統のものに限られ、別系統のケーララ州のジャイミニヤ派のものが含まれていなかったために、それらに基づくこれまでのテキストはすべて不完全なものであった。タミルナードゥとケーララの両系統のジャイミニヤ派の伝承と文献に関して、Asko Parpola が 1970 年代はじめから、本研究代表者が 1980 年代半ばから調査と研究を行ってきた。2001 年から両人が共同してジャイミニヤ派のすべての伝承地、およびジャイミニヤ派の写本が分散しているインド各地の写本図書館を対象に、現存するすべての写本を集中的に調査するとともにデジタル撮影を行うことにより、ジャイミニヤ派文献に関して現存するほぼすべての写本資料を確保した。

<ヴァードゥーラ派> 未知のヴァードゥーラ派(ヤジュル・ヴェーダ)の文献がはじめて学界に紹介されたのは、1920 年代、W. Caland によってである。しかし彼が利用した資料は、原写本をデーヴァナーガリー文字に転写した二次的な写本のさらに写しであり、彼が出版したテキストはヴァードゥーラ派文献全体の一部にすぎない不完全なものであった。ヴァードゥーラ派文献の基本資料を網羅的に精査するために、1990 年代はじめから井狩彌介が南インドにおいて現地調査に従事し、ケーララ州中部のヴァードゥーラ派の二つの家系で、Caland が用いた資料の原写本を含む多数の写本の存在を確認し、撮影することに成功した。井狩はその後もヴァードゥーラ派の伝承と写本の調査を継続し、重要な多くの写本を収集した。

(2) 校訂と研究

収集した両学派の諸写本を基礎資料にして、Parpola、井狩、研究代表者は、それぞれが専門とする文献の校訂を進めてきたが、2008 年から研究代表者を含む国内外の専門研究者が分担・協力して両学派の未知ないし未出版の文献および不完全な版しかない文献等の校訂・研究を目的とする共同研究を行っている。

2. 研究の目的

本研究の目的は、南インドのケーララ州中部に近接して存続する希少ヴェーダ学派のジャイミニヤ派とヴァードゥーラ派の文献伝承に関して、写本とその他の伝承資料を編纂・集成することによって総合的な学派文献コレクションを作成するとともに、主要な文献の翻訳と研究を行うことである。この研究は、研究代表者と共同研究者のこれまでの一連の研究(学派伝承の現地調査と写本収集、主要文献の校訂)を継続・発展させ、両ヴェーダ学派の伝承と文献に関する研究の集大成として、ヴェーダ研究に新たな資料と知見を提供するものである。

3. 研究の方法

ジャイミニヤ派とヴァードゥーラ派は伝承地域が重なり、伝承形態に共通点や関連性があるため、研究代表者は両方の学派の研究に携わってきた。本研究は両学派の研究の連携をさらに推し進めて、両学派の伝承と文献の研究の集大成として、以下の二つの事業を行った。

(1) 文献集成

ケーララ州において、ジャイミニヤ派は現在 20 の家系として存続し、その内の 3 つの学匠家系が口承、写本、歌詠ノート(伝承者が歌詠をノートなどに書き写したもの)によってサー

マ・ヴェーダの学派伝承を伝えている。一方、ヴァードゥーラ派には 16 の家系が属し、その内の 2 つの学匠家系が大量の古写本の形でヤジュル・ヴェーダの学派伝承を保存している。ただし両学派とも、サンスクリット語と現地語のさまざまなヴェーダ文献をばらばらに、時に混在化や断片化した形で伝承している。研究代表者は、自身と共同研究者が長年にわたって収集した両学派の大量の伝承諸資料を保管している。それらを系統的に整理して学派文献コレクションとして集成した。

(2) 翻訳研究

研究代表者と共同研究者による写本収集に基づき、ジャイミニヤ派とヴァードゥーラ派の主要文献の校訂を継続するとともに、校訂テキストの翻訳と研究を行った。ジャイミニヤ派では、Jaiminīya-Upaniṣad-Brāhmaṇa と Jaiminīya-Śrautasūtra について、サーマ・ヴェーダを専門とする研究代表者と共同研究者が担当した。ヴァードゥーラ派では、Vādhūla-Śrautasūtra と Vādhūla-Gṛhyasūtra について、それぞれシュラウタ祭式とグリヒヤ祭式を専門とする共同研究者が中心となって研究を行った。

4 . 研究成果

(1) 文献集成

<ジャイミニヤ派> ジャイミニヤ派の伝承資料には、研究代表者と共同研究者が収集(撮影)した写本、歌詠ノート、歌詠の録音・録画が含まれる。それらをデジタル化した上で整理・分類し、収集資料コレクションを作成した。写本に関しては、各地の伝承地での現地調査で存在が確認されたすべての写本を伝承地ごとに分類したカタログを作成した。

<ヴァードゥーラ派> ヴァードゥーラ派の伝承資料は大量の古写本からなっている。主要文献の写本は井狩によって撮影されているが、研究代表者を中心に現地への訪問を繰り返して、学派家系が保持するヴェーダおよびタントラ関係の写本のデジタル撮影を進め、ヴァードゥーラ派の収集資料コレクションを作成した。

(2) 翻訳研究

Jaiminīya-Upaniṣad-Brāhmaṇa、Jaiminīya-Śrautasūtra、Vādhūla-Śrautasūtra、Vādhūla-Gṛhyasūtra の四文献について校訂を継続し、翻訳を進めるとともに研究を行った。主要な成果としては、Jaiminīya-Upaniṣad-Brāhmaṇa と Jaiminīya-Śrautasūtra (未出版の Kalpa と Paryadhīyāya を含む) の暫定的な校訂版と、Vādhūla-Śrautasūtra のアグニチャヤナ祭を扱う第 8 章と王即位式(ラージャスーヤ祭)を扱う第 10 章の校訂と訳注である。

(3) シンポジウム

本研究に関連した研究成果の公開のために、京都大学人文科学研究所共同研究「ブラフマニズムとヒンドウイズム 南アジアの社会と宗教の連続性と非連続性」と連携してキックオフ・シンポジウムと 6 回のシンポジウムを開催し、発表を行った。

5 . 主な発表論文等

[雑誌論文](計 15 件)

梶原三恵子、ヴェーダ文献における brahmācārīn- の語義 : 「学生」と「禁欲者」のあいだ、東洋文化研究所紀要、175、2019、61-103 査読有

梶原三恵子、インドにおけるヴェーダの伝承について、国際哲学研究、7、2018、51-55

手嶋英貴、ケーララ州のヒンドゥー寺院司祭・タントリ その職務と家系、ヴェーダ伝承との関わり、人文学報、110、2017、121-147 査読有

Mieko Kajihara, Giving the Bride to the Bridegroom with Water at the Ancient Indian Marriage Ritual. *Studies in Indian Philosophy and Buddhism*, 25, 2017, 1-30.

大島智靖、ヴェーダの「香」、待兼山論叢、第51号哲学篇、2017、19-35. 査読有

藤井正人・手嶋英貴・梶原三恵子、ケララ州におけるブラーマン社会の現代、南アジア研究、28、2016、228-234

梶原三恵子、古代インドにおける授与の諸儀礼と水、印度学仏教学研究、65 (1)、2016、283-290 査読有

梶原三恵子、ウパニシャッドと初期仏典の一接点：入門・受戒の儀礼とブラフマチャリヤ、人文学報、109、2016、33-102 査読有

Hideki Teshima, The origin and growth of the 'Horse as the World': Textual sources of Bṛhadāraṇyaka-Upaniṣad 1.1. In: H. H. Hock (ed.), *Veda and Vedic Literature*, Selected Papers from the Panel on "Veda and Vedic Literature" at the 16th World Sanskrit Conference, 2016, 73-95. 査読有

TESHIMA Hideki, The Paśu List for the Main Sacrifice of the Aśvamedha: Its Archetype and Development in the Yajurveda Saṃhitās. 印度学仏教学研究、64 (3)、2016、1-10. 査読有

Asko Parpola, Reference to ritual authorities and Vedic schools in the Jaiminīya-Śrautasūtra and its commentary, collected and evaluated. In: J. Houben et al. (eds.), *Vedic Śākhās: Past, Present, Future*, Proceedings of the Fifth International Vedic Workshop, 2016, 665-689. 査読有

Mieko Kajihara, The Upanayana and the 'Repeated Upanayana(s)'. In: A. Parpola et al. (eds.), *Vedic Investigations*, Papers of the 12th World Sanskrit Conference, Vol.1, 2016, 271-296. 査読有

Masato Fujii & Asko Parpola, Manuscripts of the Jaiminīya Sāmaveda, Traced and Photographed in 2002-2006. In: A. Parpola & P. Koskikallio (eds.), *Vedic Investigations*, Papers of the 12th World Sanskrit Conference, Vol.1, 2016, 127-162. 査読有

Mieko Kajihara, Seizing the Novice's Hand and Pouring Water into His Hands at the Vedic Initiation Ritual. *Studies in Indian Philosophy and Buddhism* 21, 2014, 1-18. 査読有

TESHIMA Hideki, Dakṣiṇā at the Aśvamedha as Described in the Mahābhārata: Its Ritualistic Features Revealed in Comparison with the Vedic Texts. 印度学仏教学研究、62 (3)、2014、3-8. 査読有

〔学会発表〕(計 26 件)

藤井正人、王座とブラフマン神、「ブラフマニズムとヒンドウイズム」第6回シンポジウム、2019年3月23日、東京大学

手嶋英貴、贖罪としてのアシュヴァメーダ、「ブラフマニズムとヒンドウイズム」第6回シンポジウム、2019年3月23日、東京大学

藤井正人、最初のウパニシャッドはどのように生まれたのか、「ブラフマニズムとヒンドウイズム」第5回シンポジウム、2018年10月7日、京都大学

手嶋英貴・井狩彌介・梶原三恵子・藤井正人、現代インドにおけるヴェーダ祭式の文化的・社会的プレゼンス ケララ州の事例から探る、日本印度学仏教学会第69回学術大会パネル発表、2018年9月2日、東洋大学

梶原三恵子、入門儀礼と学習儀礼における衣について、「ブラフマニズムとヒンドウイズム」第4回シンポジウム、2018年3月24日、東京大学

大島智靖、儀礼における「香」の利用、「ブラフマニズムとヒンドウイズム」第4回シンポジウム、2018年3月24日、東京大学

Masato Fujii, Vānaprastha and Forest Ascetics in the Dharma and Epic Literature. 8th Dubrovnik Internatioanl Conference on the Sanskrit Epics and Purāṇas, Dubrovnik, 12 September, 2017.

Hideki Teshima, Yudhiṣṭhira as a Sacrificer of the Aśvamedha: Conceptual Basis of His Figure in the Āśvamedhika-Parvan. 8th Dubrovnik Internatioanl Conference on the Sanskrit Epics and Purāṇas, Dubrovnik, 13 September, 2017.

藤井正人、社会に取り込まれた苦行 ヴァーナプラスタ（林住者）と山林苦行者、「ブラフマニズムとヒンドウイズム」第2回シンポジウム、2017年3月25日、京都大学

梶原三恵子、聖典学習者と禁欲—brahmacarin 再考、「ブラフマニズムとヒンドウイズム」第2回シンポジウム、2017年3月25日、京都大学

藤井正人、ヴェーダ文献における *yōga/yukti* について、インド思想史学会第23回学術大会、2016年12月17日、京都大学

手嶋英貴、ヴェーダとサーンキヤのあいだ マヌ法典の存在論をめぐって、「ブラフマニズムとヒンドウイズム」第1回シンポジウム、2016年10月8日、京都大学

藤井正人、ヴェーダ希少語 *aghalā-* (*akhala-*) について、日本印度学仏教学会第67回学術大会、2016年9月4日、東京大学

Hideki Teshima, Vedic Measure System and its Application in the Ritual Field. Conference on Rituals, Mathematics and the Astral sciences, SAW Project at University of Paris, 8 June, 2016.

藤井正人、手嶋英貴、梶原三恵子、The Brahman Society in Modern Kerala. 国際シンポジウム Brahmanism and Hinduism —Prolegomena—、2016年3月11日、京都大学

藤井正人・手嶋英貴・梶原三恵子、ケーララ州におけるブラーマン社会の現代、日本南アジア学会第28回全国大会テーマ別セッション、2015年9月27日、東京大学

Hideki Teshima, Promotion of the Sacrificer through the Ancient Indian Kingship Rituals. International Association for History of Religions, 21th World Congress, 25 August, 2015.

Masato Fujii, The *Yukti* of the Stoma (JUB 3.5.4-5): A Precursor of Yoga as Concentration. 16th World Sanskrit Conference, Bangkok, 30 June, 2015.

Mieko Kajihara, The Sacred Verse Sāvitrī in the Vedic Religion and Beyond. 16th World Sanskrit Conference, Bangkok, 29 June, 2015.

Chisei Oshima, On the Role Brāhmaṇa and Rājanya in Kingship Rituals. 16th World Sanskrit Conference, Bangkok, 29 June, 2015.

⑲ 藤井正人、Jaiminiya-Upaniṣad-Brāhmaṇa の再生説の諸相、インド思想史学会第21回学術大会、2014年12月20日、京都大学

⑳ 藤井正人、ヴェーダ祭式文献における *yōga/yukti* について、日本印度学仏教学会第65回学術大会、2014年8月31日、武蔵野大学

㉑ Masato Fujii, The Sautrāmaṇī in the Vedic Coronation Rituals. 6th International Vedic Workshop, Calicut, India, 10 January, 2014.

㉒ Chisei Oshima, On the Concept of the Soma Sacrifice: From the Perspective of the Consecrated Sacrificer. 6th International Vedic Workshop, Calicut, India, 10 January, 2014.

㉓ Mieko Kajihara, brahmacārīn, brahmacārya, and Chastity in Vedic Literature. 6th International Vedic Workshop, Kozhikode (Calicut), Kerala, India, 9 January, 2014.

㉔ Hideki Teshima, Aspects regarding the Horse Guards in the Aśvamedha: Revealed through Comparison with the Rājasūya. 6th International Vedic Workshop, Calicut, India, 7 January, 2014.

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕
出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等 なし

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：梶原三恵子
ローマ字氏名：Kajihara Mieko
所属研究機関名：東京大学
部局名：大学院人文社会系研究科
職名：准教授
研究者番号(8桁): 00456774

(2)研究協力者

研究協力者氏名：井狩彌介
ローマ字氏名：Ikari Yasuke

(3)研究協力者

研究協力者氏名：手嶋英貴
ローマ字氏名：Teshima Hideki

(4)研究協力者

研究協力者氏名：大島智靖
ローマ字氏名：Oshima Chisei

(5)研究協力者

研究協力者氏名：Asko Parpola
ローマ字氏名：Asko Parpola

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。